十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	98	実施計画番号	55		
事務事業名	十和田湖民俗資料館事業の充実			事業開始年度	昭和53年度
担当課名	スポーツ・生涯学習課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等			関連事務事業		
背景や経緯等	国の重要文化財に指定された「旧笠石家住宅」の一般公開に合わせて十和田湖民俗資料館を開館。				
事務事業の目的	周辺地域の民俗資料を保管・展示し、またそれを活用した見学体験事業を展開することにより、地域の暮らしの歴史と文化についての学習機会を提供し、理解を深める。				
実施状況	常設展示及び小学校などを対象とした「子ども見学体験事業」を実施。				

【人件費の推移】

		24年度実績	25年度実績	26年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	243	243	243
	人件費(千円)	8,748	8,748	8,748
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	331	330	328
非常勤職員	人件費(千円)	2,449,400	2,442,000	2,427,200

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	24年度実績	25年度実績	26年度計画
	2,729	3,435	3,277
うち一般財源	2,699	3,405	3,244
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他	30	30	33

【指標】

活動指標	活動指標名①		子ども見学体験事業実施校数			
	計算式等		単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画
			校	7	9	7
	活動指標名②					
	計算式等		単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画
成果指標	成果指標名①		来館者数			
	計算式等	単位		24年度	25年度	26年度
		人	目標値	1,300	1,300	1,300
			実績値	1,217	2,977	
			達成度(%)	94%	229%	
	成果指標名②					
	計算式等	単位		24年度	25年度	26年度
			目標値			
			実績値			
			達成度(%)			

十和田市事務事業評価シート

整理No	98
計画No	55

【担当課による検証】

		ポイント	検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由
妥当性	①	**市民ニーズ等から見る妥当性** 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 市民や市内各小中学校に暮らしの歴史や文化を学習する場として活用されており、妥当性は高いものと思われる。
	②	**実施主体である妥当性** 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		
有効性	③	**活動指標から見る有効性** 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地 0 / 6 十和田奥入瀬芸術祭に伴い、来館者が増加しており、今後も広報活動等を積極的に行っていく必要がある。
	④	**成果指標から見る有効性** 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2		
	⑤	**事務事業の見直しの余地** 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		
効率性	⑥	**事業費の削減の余地** 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6 事業については事業の精査を行い、必要最小限の費用で施設管理や事業等を実施しており、効率性は高いものと思われる。
	⑦	**他の事務事業との統合・連携** 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		
	⑧	**民間委託等** 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		
公平性	⑨	**受益の偏り** 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4 公平性は保たれている。
	⑩	**受益者負担の見直しの余地** 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		
				現在の適性		20 / 20	改善の余地 0 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ⇒ **現状のまま継続**

方向性の理由
市民や各小中学校、その他研究機関へ先人の暮らしの歴史と文化を広める事業であり、予算の範囲内で現状のまま継続したい。

今後の具体的な取組方策と狙う効果
子ども見学体験事業等の広報活動を行い、来館者が増えるよう広く周知していきたい。